生物資源科学部だより

Vol.35
発行 2022年 1月

編集・発行／島根大学 生物資源科学部　〒690-8504 島根県松江市西川津町1060　URL:https://www.life.shimane-u.ac.jp/
TEL:(0852)32-6493　FAX:(0852)32-6499

生物資源科学部保護者会（オンライン面談）を実施しました

生物資源科学部では、10月29日（金）、30日（土）に令和3年度生物資源科学部保護者会（オンライン面談）を実施し、2日間で約120名の保護者の方にご参加いただきました。

生物資源科学部保護者会は、例年、松江キャンパスで開催していましたが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためやむを得ず中止といたしました。今年度も、感染症収束の見通しがつかなかったものの、保護者の皆さまに大学の様子などを直接お伝えする大切な機会として、オンラインによる担当教員との個別面談を計画いたしました。

当日は、保護者の皆さまはご自宅等からパソコン、スマートフォンなどで参加され、大学では55名の教員がそれぞれの研究室で面談を実施しました。オンラインによる面談は今回、初めての試みではありましたが、概ね無事に終えることができました。

ご参加いただいた方からは、県外から気軽に参加できてよかった、授業の様子や就職のことなどを聞くことができて安心した、コロナ禍で不安もあるが教員と直接話す機会があってありがたかった、などのご感想をいただきました。

生物資源科学部と後援会は、今後とも、保護者の皆さまとの相互理解を深め、緊密な協力関係を築いていくよう努めて参ります。

◆研究トピックス　日本海のダイオウイカを探る　生命科学科　広橋 教貴教授

無脊椎動物界で最大級の脳を持つイカ・タコが高い知性の持ち主であることはご存じだろうか。そのイカ・タコで体が最も大きいダイオウイカの脳はどんなに大きいことだろう。北欧に伝わる伝説の海の怪物「クラーケン」のモデルであり、今も多くはヴェールに包まれている。そのダイオウイカが日本海の海岸に頻繁に打ち上がる。日本海は外海との出入り口がかなり浅く狭いが、真ん中は海盆となっていてやたらと深い。この謎多き深海生物は暖かい（～6℃）海を好むが、日本海の深いところは常に水温が0～1℃とすごく冷たい。全くもって理解に苦しむこの生き物をイカタコ研究者の端くれとしては研究しない訳にはいかない。

生きたまま捕獲されたダイオウイカ
（2021年1月26日 出雲市）

◆研究トピックス　東京2020大会をジャパンブルーで彩った“隠岐の花トウテイラン”　農林生産学科　小林 伸雄教授

上：マスコットガーデン（江東区有明）
左：隠岐諸島のトウテイラン

東京2020大会のマスコットガーデン（東京都江東区）において、隠岐諸島に自生する絶滅危惧植物トウテイランを島根大学で品種改良したF1系‘ジャパンブルー’が植栽利用されました。本学の研究グループは「地域植物資源を活用した新品種育成と地域活性化」研究の一環として、隠岐の夏から秋を代表する青紫色の花トウテイランの遺伝資源保護と、花壇苗や鉢花としての園芸利用の研究を進めてきました。F1系‘ジャパンブルー’は涼しげなジャパンブルーの花穂とシルバーリーフが美しく、猛暑や乾燥、強風や豪雨への環境耐性を備えた特徴を持ちます。猛暑の中で開催された五輪を外国原産の夏花壇用の花と一緒に、隠岐のトウテイランが涼しげな青紫の花で彩りました。

学 科 の 様 子

新型コロナウイルス感染症の急激な拡大を考慮し、1月11日以降は全授業をオンライン授業又は代替措置を講じて実施しています。

生命科学科

左：生命科学基礎セミナーⅡの授業風景
右：水圏・多様性生物学実験Ⅰの実習風景

生命科学科では、コロナ感染予防対策を徹底しながら、対面授業、オンライン授業やオンデマンド実習を併用して授業が実施されています。コロナ禍の感染状況等を踏まえ、対面授業の割合も増えつつあります。各学年の指導教員も定期的な面談等で履修や生活のアドバイスを行いながら大学生活をサポートしています。

1年生は、1年次科目の生命科学基礎セミナーⅡで、4グループに分かれて4つの教育コースの研究室をローテーションで訪問し、各専門分野の研究内容について理解を深めています。また、大学での生活に慣れてきた様子も感じられます。2年生は、各専門的教育コースのカリキュラムでの実験・実習等の授業を通して生命科学の面白さを体感しています。3年生は後期から研究室に配属され、実験や演習を通して専門分野についてさらに深く学んでいます。4年生は、各教員の指導のもとに研究の目標を達成すべく卒論研究に取り組むなど卒業に向けて充実した日々を過ごしています。

農林生産学科

林業技術実習Ⅰ　下刈り作業

農林生産学科では、本年度後期より本格的に対面授業が再開されました。それに先駆けて、森林学コースの2年生、3年生は9月上旬に三瓶演習林で宿泊実習を行いました。松江キャンパスでは登校する学生が目に見えて増え、キャンパスに賑わいが戻ってきました。座席間隔の確保やマスク着用等の感染症対策は継続しますが、大学教育が本来あるべき姿を取り戻したことは、私達教員にとって大きな喜びです。

一方で、対面授業に対する不安を感じる学生も、特に1、2年生を中心として一定数いるようです。こうした学生には、担任が窓口となり保健管理センター等が中心となって対応していますが、ご家庭からのご助力もお願いしたいと思います。また、2年生が受講する「農林生産基礎実験」では、校舎屋上の畑を利用し、少人数の班に分かれて自由に冬作物の栽培を行っています。一緒に栽培計画を立案し管理作業を行う中で新たな友人が出来たりして、対面授業への不安感が少しでも和らいでくれれば、と願っています。相互理解を深め、緊密な協力関係を築いていくよう努めて参ります。

環境共生科学科

感染対策を取りつつ実施されている対面授業

環境共生科学科でも新型コロナウイルスの感染対策の規制緩和にあわせながら、後期授業は可能な限り対面授業に戻せるよう工夫しました。その結果、多くの科目が適切な感染対策を取りながら対面授業で実施されています。教員と学生間や、学生同士が対面でやり取りしながらの授業が実施されています。

1年生は、環境共生科学概論で各教員から最新の研究内容について紹介されています。環境共生科学科で行われている様々な研究を知った上で、2年生から分属する教育コースを選択します。2年生は、各教育コースで特色のある英語の授業や専門科目、実験・実習科目を受講しています。各教員が行っている研究成果を含む最新の知見や、実験手法を学んでいます。3年生は4月に分属した研究室で各自の研究を始めました。分属してから10か月が過ぎ、自分の研究について理解を深めています。また卒業後の具体的な進路についても考えはじめています。4年生は残り2か月で卒論研究を仕上げ卒業します。卒業論文の完成に向けラストスパートに入りました。

後援会への入会をお待ちしています！

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な学生活動への支援をいただいています。未入会の方は、是非入会いただきますようお願いします。

- 学部生　入会金及び会費30,000円
- 3年次編入学生　入会金及び会費15,000円